

TAKUの 我行我素

いつもみんなありがとう！



【As Time Goes By (1931)】

You must remember this
A kiss is just a kiss,
a sigh is just a sigh.
The fundamental things apply
As time goes by.

And when two lovers woo
They still say, "I love you."
On that you can rely
No matter what the future brings
As time goes by.

Moonlight and love songs
Never out of date.
Hearts full of passion Jealousy and hate.
Woman needs man And man must have his mate
That no one can deny.

It's still the same old story
A fight for love and glory

A case of do or die.
The world will always welcome lovers
As time goes by.



さて、いきなりの歌詞の引用ですが、ここところわりと古い映画ブームな俺。



『カサブランカ』『風と共に去りぬ』『雨に唄えば』等々…有名どころを改めて観なおしているんですが、これは音楽もそうなんだけど、やはり残る作品ってのは違いますよね。

そんな中、冒頭の「As Time Goes By」
どんなに時が流れていっても、大切なことはけっして変わらない… ジ〜ンとくる素晴らしい名曲です。

でもね、これは古い映画や曲に限らずですが、その手の深い話をなんとなくわかるようになったのって、ようやく50過ぎてからなんですよ。正直若いときは、わかった風な雰囲気というか、そんなものなのかもしれない的な受け止め方しかできなかった。

だからこの頃は、昔観た映画、聴いた曲、読んだ本、言われたコトにひそんでいた、当時の自分には認識できなかった深みに、今更驚く場面がホントにたくさんあったりします。

今思えば、非常にもったいなかった話なんです
が、まあそゆもんなんですよねきっと。

ところがね、今回はここまでの **As Time Goes By** 的なけっして変わらない大切なコトの件じゃないんですよ俺の書きたいことは… 実は真反対の話なんです (笑)

確かにけっして変わらないコトがあるのと同時に、絶対に変わっていかねばならないコトもあるでしょって話。

てゆか時に、“変わらないコトの勘違いの乱用”は、サボリの言い訳になりますからね。

だって、そのまんまでいいのならば、なんも考えなくていいんだもの… 楽ちん (笑)

できないことはできないままでいいし、わかんないこともわかんないままでいい、だってこれが俺様のスタイルなんだから… とか言う理屈がもし自分の頭の中に生まれたら、きっとその時、クリエイターとしての自分は終焉なんだろうなといつも思っていたりします。

言葉にするならば、自分の“最先端ライン”や“最前線”を常に意識していたって感覚なのかな。 もちろん“最先端ライン”ってのは、

同時に今時点での自分の“限界ライン”とイコールなわけで、常にその拡大に努めたっていうか… でもこの年齢になってくると、それは、若いときのような、“量”のもっともっとという感覚とはちょっと違っていて、“質”のもっともっとを求めている感覚かな。 もう違いがとってもよくわかりますからね (笑)

でもここで問題もあるんだよ。 だって違いがわかってくるというのは、素晴らしいコトであると同時に、自分にも他人にも失望を感じる機会が増えるということでしょう？ ホント難しい。

ここまで色々のごたくを書いてきましたが、それはともかくとして、なんといっても最近一番の俺の中での衝撃は、映画の話に戻りますが、あのブルース・ウィリスと、我らの嵐さんがおない歳だということですね (笑) それと、ジョージ・クルーニーが俺よか年下だったということ。 まあともかく、56歳の自分がどんな風であるべきか、相変わらず“最前線”を日々模索している今日この頃な俺です。 Love For You

